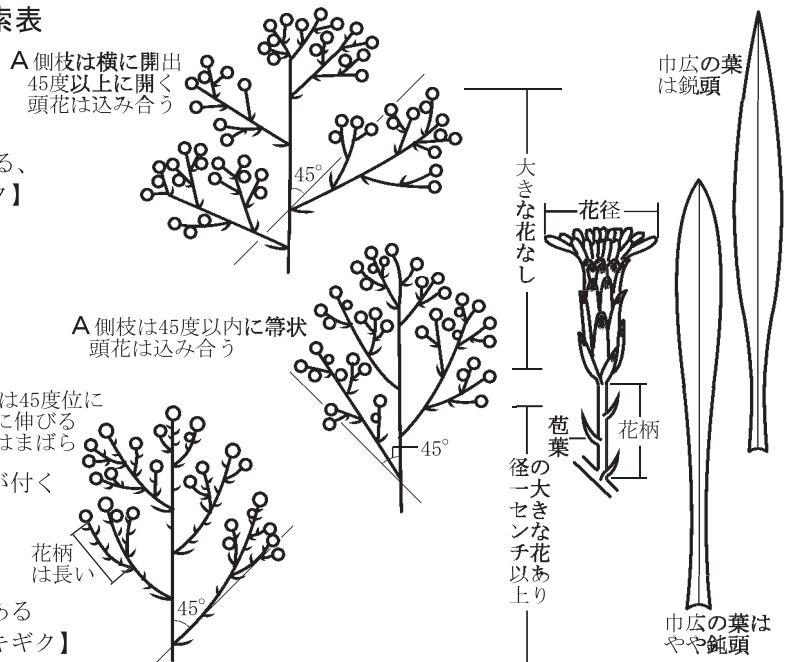


### キク科 シオン属(Aster) ホウキギク節 図入り検索表

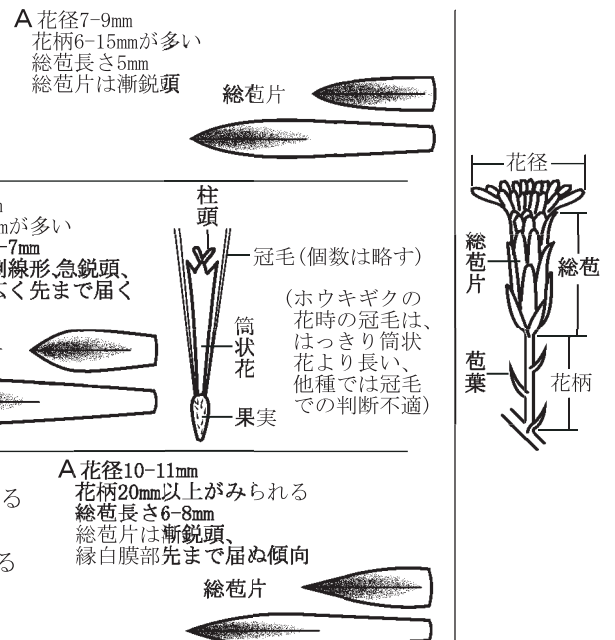
#### 《外見からの判断》

- ◆A側枝は主幹に対し45度以上に広く横に開出するもの多い
  - ◇大きな花はなく、頭花はやや込み合っつく
  - ◇茎下部に被針形で中央の最広部が最細部の3倍巾以上ある、細く尖る葉がある【ヒロハホウキギク】
- ◆A側枝は主幹に対し45度以内に狭く箒状に斜上する
  - ◇大きな花はなく、頭花は込み合っつく
  - 花柄は短く15mm以下が多い
  - ◇茎下部の葉も巾の広いものはない【ホウキギク】
- ◆A側枝は主幹に対し45度位に斜上する傾向で、弧状に伸びて、頭花はややまばらにつく
  - ◇花の初期には、長く弧状に伸びた側枝頂部に優先して花が付く
  - ◇径10mm以上の花がある(花の大小は変化あり)
  - 花柄は長めで20mm以上が多く、100mmほどで多数の苞葉を持つものもある
  - ◇茎下部に被針形の巾広い葉がある場合、葉はやや鈍頭である【オオホウキギク】



#### 《花・果の検索》(花径は変化あり)(冠毛は花後に変化し同長など解り難い)(果実は時期に左右され解り難い;不稔果は雑種も疑う)

- ◆A生時の花径は7-9mm;花柄は6-15mmが多い
  - ◇総苞は長さ5mm◇長い総苞片は4~4.5mm、線形で最大巾は中央付近にあり、先端に向かい徐々に尖る
  - ◇花時の冠毛は筒状花より短く、舌状花の筒とは同長であるが、わかり難い
  - ◇果実は淡褐色熟◇花期速く9月初~【ヒロハホウキギク】
- ◆A生時の花径は4-6mm;花柄は6-15mmが多い
  - ◇総苞は長さ6~7mm◇長い総苞片は5mm、倒線形で鋭~鈍頭、最大巾は先端近くにあり、縁の白膜質部は広く先端まで届く
  - ◇花時の冠毛ははっきり筒部より長い(舌状花・筒状花とも)
    - ◆B果実は淡褐色熟◇花期速く9月初~【ホウキギク】
    - ◆B果実は稔らない;総苞や冠毛、葉の形など中間を示す【ムラサキホウキギク(ホウキギク×ヒロハホウキギク)】(ホウキギク赤紫帯の傾向)
- ◆A生時の花は大きく花径10~11mm
  - 花柄は(15)20mm以上がみられ、100mmほどで多数の苞葉を持つものもある
  - ◇総苞は長さ6~8mm
  - ◇長い総苞片は6mm、線形で鋭尖頭、縁の白膜質部は先端まで届かぬ傾向がある
  - ◇舌状花・筒状花とも花時の冠毛は筒と同長だが、わかり難い
  - ◇果実は紫褐色熟◇花期遅く東京で9月20~【オオホウキギク】



#### 《葉の検索》(茎下部の葉は花時は枯れるか消失している場合が多く、ホウキギクとオオホウキギクは時に葉での区別難い)

- ◆A被針形の葉がある;葉の最広部は最細部の3倍巾以上ある
  - ◇生時には葉の微細脈まではっきり透ける
  - ◇葉先は細く尖る(小葉では著しく細く尖る)
  - 着部は急に少し広がり茎を浅く(1/2)抱く【ヒロハホウキギク】
- ◆A被針形の葉はないかごく稀で、線形がほとんど;葉の最広部は最細部の倍巾程度
  - ◇生時に葉の微細脈はあまり透けない(細脈はやや透ける)◇葉先は尖るが著しく細くはない;葉の着部は茎を深く抱く
    - ◆B葉先は鈍く尖る;葉は下1/5あたりが最細で着部に向かい漸広し、着部で急に広がり茎を広く深く(3/4)抱く【オオホウキギク】
    - ◆B葉先は尖る;葉の下部はほぼ同巾で、着部で急に広がり茎をやや深く(2/3)抱く【ホウキギク】

